

平成21年度 【 大学振興会研究奨励補助 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ ヨシダ アケミ
氏名 吉田 あけみ

研究期間 平成21年度

研究課題名 「椋山女学園大学卒業生のライフコース・ライフスタイルに関する研究」

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	吉田あけみ	人間関係学部	教授
研究分担者	東 珠実	現代マネジメント学部	教授
研究分担者	太田ふみ子	椋山女学園中学校・ 高等学校	教頭
研究分担者	小倉 祥子	人間関係学部	准教授
研究分担者	塚田 文子	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者	藤原 直子	人間関係学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

これまで本研究プロジェクトは、2カ年にわたり、女子学園に通う生徒・学生のライフスタイルの将来展望に関する調査研究を実施してきた。本研究では、その成果を受け、女子学園に通う生徒・学生の理想のライフスタイルが、彼女たちの卒業後の生き方にどのように反映されていくかについて明らかにするとともに、これまでの分析において見出されたいくつかの仮説的考察の検証を試みることにした。具体的には、本学園の卒業生に対して面接調査を実施し、本学園の卒業生の職業観・結婚観・生活観に関連する諸特徴の分析と考察を行い、本学生徒・学生の教育ニーズを探ることを目的とした。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

本研究は、本学卒業生に対するインタビュー調査により実施した。調査期間は2009年8～10月、27～37歳の本学卒業生25名に対し、6人のインタビュアーが、ライフコース等に関する聞き取りを行った。なお、調査対象者の選定にあたっては、学部別に、結婚の有無、子どもの有無、就労状況などのライフスタイル及びライフコースについて多様なパターンを比較できるよう配慮した。

主に、回答者の属性や背景となる状況、理想としていたライフコース、現在のライフスタイル、現実のライフコース、今後の仕事やキャリアに関する見通しや希望、在学生・在校生へのメッセージなどを尋ねた。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

以下の4点について、重点的に聞き取り調査を実施することが出来た。その結果として以下のようなデータを25名分収集することが出来た。一例のみ引用することとする。

① 学生時代の理想のライフコースと現実のライフコース及び今後の展望

学生時代は、20歳代後半に結婚し、子どもを2人産み、結婚・出産後もフルタイムで働きたいと考えていた。実際には、現在未婚で、初職である食品会社で食品製造の品質管理の仕事をしている。

将来的には40歳ぐらいまでには結婚し、子どもを2人もうけたいと考えている。仕事も続けたいと思っている。

② 母親のライフコースとそれに対する評価

母親は、乳幼児期から大学卒業まで無職であった。祖父が住職だったので、お寺の仕事の手伝いなどはしていた。C氏は、ほぼ専業主婦の母親に対して「肯定的」な感情を持ち続けていた。家に帰ると母親がいるのは当たり前で、母親べったりだった。周りの子たちの多くもお母さんが家にいたので、専業主婦の母親というものにプラスのイメージを持っていた。

③ 学校・大学時代の教育(授業)及び他の活動に対する評価と要望

食品栄養学科卒業で、食品関係の仕事に従事しているので、大学で学んだ知識がそのまま役立つわけではないが、仕事上のヒントになることがある。

女子大を経験したことにより、女性に慣れることができた。工場には女性のパートやアルバイトの人が多いが、その人たちと良好なコミュニケーションを保つ上で大学時代の経験が役立っている。

就職に関するサポートが活発ではなかったため、社会人として役立つスキルなどについて、学ぶ機会があればよかった。

④ 在学生・在校生へのメッセージ

就職してすぐにやめてしまう人がいるが、仕事はちょっとぐらい嫌でもつらくても、少し我慢してほしい。続けてみることによって、自分の気持ちも変わり、仕事が楽しくなる時が来ると思う。ただ人に言われたことだけをやるのではなく、自分の目標を見つけて頑張してほしい。

これらの25名分のデータを分析した結果、本学園における今までの教育実践の成果を確認することが出来た(高校における幅の広い教育は成果をあげている、大学においてはそれぞれの専門教育はそれなりに評価されているなど)とともに、今後の課題(大学におけるいわゆる一般教養科目の充実など)を見つけることが出来た。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①ライフスタイル	②ライフコース	③ジェンダー	④キャリア
⑤キャリア教育	⑥カリキュラム	⑦高大連携	⑧女子教育

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

東珠実・太田ふみ子・小倉 祥子・塚田 文子・藤原 直子・吉田あけみの共著として椋山人間学研究センター年誌『椋山人間学研究』vol. 5に「女性論」プロジェクト研究報告

(A Report of the Women's Studies Project) 女子大卒業生のライフコースに関する一考察—25事例の分析—として報告する予定(平成22年3月31日発行予定)である。

この報告を踏まえて、次年度はより詳細な報告集の作成などを実施していきたいと考えている。さらに、今回の調査より明らかになった教育プログラムや教育実践に関する発展的な要望について、その可否並びに成果の検討を行い、実際の各自の教育活動に反映させていきたいと考えている。